

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0290100049		
法人名	社会福祉法人 桐紫苑		
事業所名	グループホーム あべの		
所在地	青森市幸畑字阿部野163-112		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	平成24年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花と自然に囲まれた中で、笑顔の絶えない生活を支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年11月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流が盛んに行われ、日常的に地域住民が訪れて利用者との交流を図っている。また、地域住民からの介護や認知症に関する相談を受けたり、運営推進会議でのホーム運営に地域からの協力を得る等、地域に溶け込んだ事業所運営が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 外 己 部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解し、安心して充実した生活が送れるように支えており、独自の理念を作成している。	ホーム独自の理念を職員の話し合いの基で作成しており、理念に基づいた運営を行っている。また、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解し、利用者が住み慣れた地域で、地域住民と関わりながら生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり、誕生会・敬老会・クリスマス会等で地域の人達を招いて、地域との交流を図っている。	地域住民との交流が活発に行われており、誕生会や敬老会、クリスマス会等のホーム行事への招待の他に、常日頃から訪問してもらう等、地域の中のグループホームとして定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部から人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に参加を促す取組みをしている。	定期的開催される運営推進会議には、地域の自治会長をはじめ、様々なメンバーが多く参加しており、委員への講習をはじめ、情報交換やホームへの質問等、活発な意見が交わされている。また、自己評価及び外部評価の結果や、その活用についても説明しており、運営推進会議がホーム運営に役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営や問題等について連絡をとり、必要に応じて情報提供を行ったり、連携を図っている。運営推進会議にも参加してもらっている。	運営推進会議には、行政担当職員や地域包括支援センター職員が参加しており、日頃からホーム運営に関する事から利用者についての相談等、連携が図られている。また、パンフレットの配布をしている他、自己及び外部評価結果や目標達成計画の提出や報告を行い、ホームの実態を理解してもらえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>全職員が身体拘束について認識し、基本的に拘束のないケアを実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族等に説明を行い、同意を得ている。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを整備し、職員研修にて身体拘束の内容やその弊害についての学習をしており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合には、家族等に説明し、同意を得る体制を整備し、対処している。また、無断外出時に備えて交番やタクシー会社等に協力を呼び掛けており、職員は連携して利用者の外出傾向の察知に努め、支援している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外・内部研修への参加や実施等を通じて、全職員が虐待防止法に関する理解を深める取り組みを行っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者・職員は研修を通じて、常日頃から学習し、理解を深める取り組みを行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、利用者や家族等に、事業所の理念やケアの方針等について説明している。利用者や家族の意見や疑問を聞き、十分納得を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見や苦情を出しやすいように働きかけ、意見等を上手に表すことが出来ない利用者については、本人の不満や意見等を察するよう取り組んでいる。</p>	<p>日頃から、利用者や家族が何でも自由に話せるような雰囲気作りと声掛けに努めており、利用者自ら意見等を伝えることが難しい場合には、日々の生活の中での表情や仕草から意向を汲み取るように努めている。また、出された意見や要望に対しては、ホーム内での検討を重ね、改善策を立てて運営に反映し、サービスの向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段のミーティングを通じて、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	毎朝の申し送りや職員ミーティング等で、ホーム運営に関する事が様々話し合われており、出された職員の意見や要望を法人本部にも伝え、事業運営に反映させている。また、日頃から、業務の中で職員が意見を言えるような雰囲気作りに管理者は努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。就業規則があり、守られている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験に応じた研修会への参加等を通じて育成している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者・職員は研修を通じて同業者と交流し、意見を交換している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の普段の行動をよく観察し、利用者や家族と面談したり、直接話を聞く機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談を受けた場合、家族の思いや希望、ニーズを把握するよう努め、信頼関係を築くよう対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、スタッフと話し合っ て、その時何が必要かを考え、対応して いる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置か ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いて いる	職員は利用者の喜怒哀楽に共感し、理 解するように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置か ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に 本人を支えていく関係を築いている	入居時や面会時、家族との情報交換を 行うことにより、家族の思いを把握してい る。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	利用者がこれまで関わってきた人との交 流を継続できるよう支援している。	利用者の入居前の人との関わりや馴染 みの場所等の把握を行い、日常生活の 会話の中からも聞き出すように努めてい る。また、馴染みの場所への外出や、 知人等との電話や手紙でのやりとり等、 交流を継続できるように支援をしてい る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係を把握 し、利用者が孤立しないように配慮して いる。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これま での関係性を大切にしながら、必要に応じて 本人・家族の経過をフォローし、相談や支援 に努めている	サービス利用が終了しても、相談に応じ る姿勢を利用者や家族に示している。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の希望や意向を把握するよう努め、必要に応じて家族等から情報収集を行っている。	日常的に利用者に関わる時間を多くとり、利用者の希望や要望をキャッチするように努めている。また、意思疎通が難しい利用者に対しては、日々の関わりの中から職員が感じ取るように努め、職員で話し合い、意向把握の統一を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らしを尊重するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通し、職員皆で情報を共有し、支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の身体状況や家族の希望に変化がないか、常に観察・把握するように取り組んでいる。	介護計画作成時には、可能な限り利用者や家族等の意向や思いを取り入れている。また、日々関わる全ての職員の気づきと意見も反映させており、利用者や家族等の意向や思いを反映させた具体的な内容の介護計画を作成している。介護計画は定期的な見直しや評価の実施の他に、利用者の身体状況の変化や家族からの要望が新たにあった場合等には、随時見直しを行い、必要に応じて再アセスメントを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、バイタルチェック等の記録をミーティングや申し送りにて情報共有し、計画の見直し・実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者がより安心して生活ができるよう、地域の民生委員、交番や消防署等と、その都度互いに連絡を取る等の協力が得られている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を受けながら、医療機関を受診できるように支援している。	入居前より利用者が利用している医療機関の受診が継続して行われており、認知症の専門医や皮膚科、泌尿器科等の受診も行われている。また、担当医からの説明や検査結果等の情報共有が、ホームと家族の間で図られている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアを看護師・職員とよく相談しながら行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは、利用者に関する情報交換や退院に向けた支援体制を整えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の利用者が、日々より良く暮らせるよう、職員・家族・医療機関と話し合い、ケアをしている。	重度化や終末期のケアについてのホームの方針を明確にしており、利用者、家族、医師との話し合いにより対応が検討される等、具体的な取り組みも行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるように、緊急時対応マニュアルを作成し、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いざという時に適切な避難誘導が行えるよう、住民や交番、消防署等からの理解・協力を得られるように働きかけを行っている。	定期的に日中の避難訓練、夜間想定訓練も実施しており、利用者も参加して取り組んでいる。また、専門業者による定期的な消防設備の点検を実施し、地元消防団による災害時の支援体制の整備も進められている。また、万が一に備え、非常食や飲料水、毛布等の備蓄を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意向を配慮した上で声掛け対応し、日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。	利用者への接遇に関するマニュアルを作成し、職員間で日頃の利用者への対応を話し合い、利用者尊重とプライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の関わりや家族からの情報を基に、希望や思いを把握し、自己決定できるよう配慮・支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を行い、希望に沿って過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を尊重し、月一回理容師が訪問したり、美容院まで家族や職員が連れて行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に席に着き、会話を楽しみながら過ごしている。利用者は配膳・下膳も手伝っている。	法人の栄養士が作成した献立を基に食事を作っており、利用者の好きな物、苦手な物の把握もされ、苦手な物等がある場合には柔軟に代替食品での対応をしている。また、職員も可能な限り一緒にテーブルで食事をとりながら、さりげなくサポートを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量と水分摂取量等を記録し、把握している。嚥下機能が低下した方については調理の工夫や介護方法等を工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の手入れの必要性を理解し、毎食後に口腔内の洗浄や義歯の手入れ等を、職員も一緒に行ったり、声掛けをしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを記録し、把握している。パターンに応じて誘導し、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、職員間で排泄支援を検討し、見守りを中心とした排泄介助によって、排泄の自立を促している。また、排泄介助の際には、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した声掛けや介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食材やメニューを工夫している他、水分補給にて対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めて行っているが、その人の状態をみて実施している。入浴拒否の利用者に対しては、タイミングを見計らって声掛けや対応等を工夫している。	決められた入浴日以外でも利用者の希望に応じて入浴支援しており、入浴を拒む利用者には、声掛けを中心に、工夫しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事や疲れ具合に応じて、柔軟に休息を取り入れている。眠れない利用者については、必要に応じて家族や医療機関と相談しながら眠剤を与えることもある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬の内容を把握できるよう、取り組みを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の楽しみや気分転換につながるように、日常的に外に出る機会を作っている。	日常的な散歩等の外出や行事による外出の他に、利用者の希望に応じて個別に車での外出も行っている。また、利用者のその日の体調や気分を考慮し、外出が無理な場合には見合わせる等、柔軟な対応をしている。ホーム行事の際には家族にも参加や協力を呼び掛けており、できる限り利用者の希望に沿って支援できるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望、家族にも配慮しながら、利用者自らが小遣い等の金銭管理が出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用や手紙のやり取りが自由に出来るよう、プライバシーに配慮しながら支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には暦や飾りつけ、季節の草花を飾ったり、手作りの掲示物等、居心地良く過ごせるよう工夫している。	共有空間は日常生活の中で一番長く利用するため、落ち着いて、仲良く共有できるような空間作りに取り組んでいる。家庭的な調度品の配置や座席配置をしておき、季節を感じる事ができるような手作りの作品や、楽しい行事での写真等を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人や利用者同士で過ごしやすいように、居間にソファや椅子を置いたり、畳のスペースもあることで、思い思いに過ごせる居場所作りや環境づくりを行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた馴染みの物を置いてもらう等して、家庭環境と同じようになるよう工夫をしている。	利用者の居室には、入居前から利用していた家具や家電製品、仏壇等が持ち込まれている。また、持ち込みの少ない利用者の居室も、入居後に好きな物を揃えたり飾ったりすることで、その人らしい居室となるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し、身体状況に応じて手すり等を設置したり、利用者の変化に対応して改善できるように工夫をしている。			